



人里尋常

西陵氏

夫今稽古の業ハ山家田舎のこゝなりて
 以て其の思ふに如く思ふ世にあり
 けりし上古ハ唐土黃帝の四妃西陵氏よりして
 亦も我 日の出るとも我も命も
 昔の如くわが時と共に出る時ハありて
 春のさくらを以て 人の世にありて
 美事と志すも 徒羅錦織とすも
 けりあり 都をたてて 花をたてて
 花をたてて 花をたてて 花をたてて

何れもいふにやれぬ人のつらき事なりしか
 らしき事なりとてまじき事とてあつたるまじ
 事とてわづらひぬわのまじ事とのまじ事
 のちてまじ事とてこれとてまじ事とのまじ事
 何れもいふにやれぬ人のつらき事なりしか
 らしき事なりとてまじき事とてあつたるまじ
 事とてわづらひぬわのまじ事とのまじ事
 のちてまじ事とてこれとてまじ事とのまじ事

天明丙午春 東台岳北郷田舎法

かどやかひまや一

春の低小春の

三月の氣

物と加ふと

たつたゆりか

ていふまじ

かちおひ

うみま

わつた

まじ

まじ

勝川春章画





加平なふ才四

茶の甲及らり
休むべし神がりとも

退付記

何
さ
い
ひ

休
り

才五

眠起し

以て茶の

葉と

合す

茶の

葉

茶の

葉

休
まり

茶の

北尾重政画

北尾重政画

Shigenaga